火　災

**小さな火災でも速やかに
１１９番に通報しましょう**

初期消火には消火器が非常に有効です。一家に一本、備えましょう

火災発生時の対処法

もしも火災が発生した場合には、まず大声で近所に火災を知らせ、速やかに119番に通報してください。初期消火で火が消せなかった場合には、無理をせず、すばやく避難しましょう。

1 大声で知らせる

●「火事だ」と大声を出して、隣近所に助けを求めます。火災のときはあわててしまい、一人ではなかなか対処できません。

2 早い１１９番通報

●火災のときは１１９番に通報します。固定電話、携帯電話も局番なしで「１１９」です。

●１１９番通報は、可能であれば固定電話から通報します。固定電話だと、消防局ですぐに通報場所を特定することができます。

●小さな火災でも１１９番します。壁の中や天井裏に火が入っている可能性もあります。

3 早い初期消火

●火災の被害を最小限にとどめるためには、早い消火が肝心です。

●消火器やバケツリレーの水などで安全に初期消火を行います。

4 早めの避難

●天井に火が燃え移ったときは、消火をあきらめ、すぐに避難してください。

●避難するときは、可能であれば燃えている部屋の窓やドアをしめて空気を絶ちます。

住宅用火災警報器について

消防法により、すべての住宅（共同住宅も含む）には住宅用火災警報器の設置が義務づけられています。

住宅用火災警報器の取り付け場所は、すべての寝室です。２階に寝室がある場合は階段の上部にも設置が必要です。また、住宅の階数によっては、その他の階段にも必要となる場合があります。

住宅用火災警報器が作動して火事を未然に防いだ事例は数多くあり、火災防止に大変効果があります。

住宅用火災警報器の例

検定合格表示

ご注意　●住宅用火災警報器の電池寿命は、各メーカーともおおむね10年とされています。また検知部等の精密部品も劣化するため、10年を目安に本体交換をお勧めします。

火災予防について

① 天ぷらを揚げるときは、その場を離れない
② 寝たばこ・たばこの投げ捨ては禁物
③ 家の周りに燃えやすいものを置かない
④ 子供にマッチやライターで遊ばせない
⑤ 不具合のある電化製品は、使用しない
⑥ こまめにコンセントプラグのほこりを清掃する
⑦ ストーブの周りに燃えやすいものを置かない
⑧ お休み前には火の元点検
⑨ お年寄りの部屋は１階に
⑩ 消火器を備える

恐ろしいのは煙です！

火災で発生する煙には有毒ガスや一酸化炭素が多く含まれ、吸い込むと中毒などにより命を落とす危険性があります。
タオルやハンカチなどが手元にある場合は口と鼻を覆い、姿勢を低くし、壁づたいに避難しましょう。

火災からの避難（６つのポイント）

① 消火できず、天井に火が移ったときが避難の目安
② 避難は小さな子ども・お年寄り・身体の不自由な人などを優先
③ 服装や持ち物にこだわらず、できるだけ早く避難する
④ 煙の中を逃げるときは、できるだけ姿勢を低くして
⑤ いったん逃げたら、中には戻らない
⑥ 逃げ遅れた人がいるときは、近くの消防隊にすぐ知らせる

火元別の初期消火方法

■天ぷら鍋
慌てて油に水をかけるのは厳禁。離れた位置から消火器を使うこと。

■着衣
着衣に火が着いたら、落ち着いて、近くの水がある場所へ急ぐ。水がないときは、走り回らずに、転げ回って消す。

■石油ストーブ
消火器で一気に消火。石油が流れて炎が広がらないように、消火器で囲い込むように消火する。

■電気機器（電化製品）
いきなり水をかけると感電の危険がある。まずは消火器で消火した後、電源コードを抜くと安全。

■カーテンやふすま
消火器や水で消火する。炎は、上へ上へと、あっという間に大きくなるので、天井に燃え移ったときは、ただちに避難する。

火災を防ぐ

ワンポイントアドバイス

「通電火災」にご注意を！

「通電火災」とは、地震・台風等の自然災害の影響により、**停電から電気が復旧することによって発生する火災**を言います。

【具体例】地震により、転倒・落下した可燃物が、電気ヒーター等に接触し、電気が復旧した時に着火する。

【対　策】
・停電時に自宅等を離れる際は、ブレーカーを落とす。
・停電中は電気機器のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから抜く。
・停電から復旧してブレーカーを戻す前後に、電気機器に異常がないことを確認する。

火災に対する備えをしておきましょう